

## 力の命

ダン・ジャスター

2014年06月27日



聖霊の賜物は、2千年前の使徒的な指導者のみに暫定的に与えられたものだという、間違った教えが広まっています。しかし特に、現代の東アジア、インド、アフリカ、南米のリバイバルの中で起っている、奇跡的なしるしや不思議は、学術的な研究の中で確実に記録されています。どこでも聖霊が顕著に臨在されると、力強い「何かが起こり」ます。

新約聖書では、聖霊がご自身を顕すため、超自然的な兆候を持って、偏在的に聖霊が働きかけています。この事は、使徒の働き2章でペテロのメッセージにみることができます。「神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見...」これは何もイエシュア（イエス様）の最初の弟子たちだけのものではありません。いつの世にあっても、聖霊のバプテスマは、それを体験するまで求め続ける必要のあるものです。

マルコは「信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばを語り...病人に手を置けば病人はいやされます。」と書いています。ある人はこれは議論の対象となっている箇所だと言います。しかし、この事が語られたのは、初期の信者たちがイエシュアの教えを理解し、思っていたことの概要を現代の私たちに確実に提示できる程、初期の時期に起ったことなのです。

新約聖書の気に入った箇所だけを選び、取り出すことはできません。聖書全体は以下のことに合意しています。イエシュアは「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。」と言っています。これは、すべての個々の信者が、さらに大きなわざを行なうという意味ではなく、その可能性が秘めているということです。またこの事は、メシアのからだ（キリストのからだ）がさらに大きなわざを行なうことも示しています。それは聖霊が内に住むことで、その臨在と力は時間と空間に支配されなくなるからなのです。

イエシュアは、ルカ 9 章では 12 人の弟子を、ルカ 10 章では 70 人の弟子を遣わしました。2 つとも、主が与えた指示は同じで、彼らがイスラエルの村々へ行き、病人を癒し、神の御国が近付いた（手の届くところまで）ことを知らせることでした。癒しと解放は、御国の力によって暗闇の力が負かされたことを示しています。私は、覆すことができない程多くの、正確な預言、癒しや解放を経験してきました。成熟さ、知恵、マネジメントにおいて成長していくことは重要ですが、（そういった奇跡を手にするための）代償としては、十分に支払う価値があるのです。いのちにあつて無秩序であるほうが、秩序があつて死にあるよりは良いのです。

## 地の果てまで

コーディ・アーチャー



「使徒の働き」は、福音の拡大はエルサレム、ユダヤ、サマリヤから、地の果てに至るまでと時系列で記されています（使徒の働き 1:8）。一つの地理的地域で始まったものが、30 年の内に小アジアの各地や、主要なヨーロッパの都市に広がり、その数も何万人へと膨らんでいきました。この拡大は 6 段階で、その各段階が進捗報告によって完結しているパター

ンとして見る事ができるのです。

1. 使徒の働き 1:1 – 6:7 は、エルサレムで教会の誕生とペテロの説教について述べています。
  - 進捗報告：「こうして神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰に入った。」
2. 使徒の働き 6:8 – 9:31 は、ユダヤを通じて福音が広がり、ステパノの殉教とガリラヤとサマリヤでの説教について描写しています。
  - 進捗報告：「こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信者の数がふえて行った。」
3. 使徒の働き 9:32 – 12:24 では、パウロが改宗し、カイザリヤでコルネリウスや彼とともにいた異邦人たちが神の家族に受け入れられ、福音がアンティオケに広まっていきました。
  - 進捗報告：「主のみことばは、ますます盛んになり、広まって行った。」

4. 使徒の働き 12:25 – 16:5 は、パウロのガラテアへの宣教旅行によって、福音が小アジア各地に広まって行ったことを記しています。
  - 進捗報告：「こうして諸教会は、その信仰を強められ、日ごとに人数を増して行った。」
5. 使徒の働き 16:6 – 19:20 では、福音はコリントやエペソといったヨーロッパの都市にも拡大していきました。
  - 進捗報告：「こうして、主のことは驚くほど広まり、ますます力強くなって行った。」
6. 使徒の働き 19:21 – 28:31 では、福音は当時の世界の中心地であったローマにも届き、パウロは監禁された状態の中で、自由に福音を宣言し、また意義のある書簡をしたためたのです。
  - 進捗報告：「パウロは...大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。」

この紀元 1 世紀における福音の進展は、現代の私たちを励ましてくれるものです。それは、この終わりの時に、福音がエルサレムに帰って来、すべてのイスラエルが救われるという、同じようなことが反対の順序で繰返えされていることによるのです。

## 犠牲的な愛



犠牲のない契約はありません。イエシュアは、愛こそが最も偉大な律法であり、人が友のためにその命をも与えようとすることは最も偉大な愛だと言われました。このメッセージでアシェルは、2 人の人がイエシュアの愛によって一致し、お互いに相手のため、必要な時に犠牲を払おうとする心を持つとき、これこそが健全で成功する人間関係の土台となります。

<http://www.youtube.com/watch?v=lqncPr6BdMI&feature=share&list=UUeOJT0q7PjZHNSXnjZpZkAA>